

タウン・ルーキー 現る！

今回もまた、弊社の事務所がある熊本市の子飼商店街の話題を3つ。プロスポーツでもなんでも、ルーキー（新人）が活躍するところは強い。とりわけ若いルーキーは、そこにいるだけで華やぐ。まちも商店街も、ルーキーを獲得し、活躍の場を与えることを考えよう。

3週間ほど前、タウンルーキーと名乗る大学生5人組が、「まちの役に立ちたいから、商店街で活動させてください」とやってきた。立派な内容の趣意書を持参しており、それによると、「私たちは、大学生が地域に出て行って、笑顔、会話溢れる地域づくりを目指します。テーマは『地域のモラルを向上させ、よりよい地域を創りたい』です。まち（タウン）の新人（ルーキー）として、元気いっぱいチャレンジしていきたいと思っています。」とあった。

2週間前から、さっそく「子飼商店街 自転車おす隊」の活動を始めてくれた。毎週水曜日の午後5時から1時間程度、ライオンの着ぐるみをつけて自転車を押して歩きながら、「子飼商店街では、自転車に乗ってはいけないことになっております。自転車を押して、笑顔溢れる、明るいまちをつくりましょう。」と、通行する自転車に、さわやかに呼びかけてくれる。

ちなみに、彼らは事前の通行量調査を実施しており、平日の16時～18時の自転車通行量は約千台で、そのうち自転車を押して歩く人の割合は4.5%しかないという現状把握に基づいてこの行動を始めた。私も彼らと一緒に「ご協力お願いします」と声を出すようにしている。

10月29～31日、熊本大学建築学科3年生80名が「建築展2005」を子飼商店街で開催した。学生たちは、4月から半年かけ、店主や買い物客への聞き取り調査、交通量調査を実施した上で、課題を踏まえて4つのテーマでたくさんの図面や模型を作り、それを空き店舗で展示した。30日には、商店街の一角にある校区コミュニティセンターで講評会を開き、大学の先生方や学生、商店街の店主など大勢が見に来てくれた。彼らは、一連の活動の様子を紹介する写真、商店街の商業映像、揃いのTシャツにカンバッヂ、フライヤー（チラシ）、横断幕、立て看板、案内サインなどをパソコンやAV機器を駆使してプロ顔負けのものを作った。どれも、楽しんでやっていることが伝わってくる、素晴らしい出来栄だった。

現場で看板製作や空き店舗の内装改造をする学生を見ながら、すし屋のおばちゃんが、「お兄ちゃんたちはいいねえー。私たちのころは、戦争で……。今は、難しいことを何でも勉強できて、いろんなことが自由にやれて、何の心配もない。幸せよねー。」と目を細めていた。

明日11月11日は、商店街の年に一度のイベントがある。そこで地元碩台小学校の3、4年生が、日頃の学習成果を発表してくれる。出し物は、「KUMAKOI六調子」の踊りや合唱、絵画の展示、あったかハート宅急便（商店街内でお年寄りの荷物を持ってあげるサービス）などである。昨年も出演してもらったが、合唱などは、ちょっと感動ものの上手さである。碩台小の児童たちは、日頃から「自転車ストップ運動」や職業体験で商店街と交流がある。その子どもたちが、小さなタウン・ルーキーとして登板する。明日は、なんとしても晴れて欲しい。